

平成 30 年 9 月 30 日開催 まちびらき記念式典 東京工業大学 中井検裕教授 祝辞

ただいまご紹介賜りました東京工業大学の中井と申します。本日は陸前高田市の震災復興計画策定時の検討委員会、また計画策定後の推進委員会委員長として一言ご挨拶申し上げます。

まずは、本日まちびらき記念の式典の開催にあたり、この日を迎えられたことを本当に喜ばしく思うと同時に、今日を迎えるまでの本当に多くの方々の努力とご支援に委員長として厚く感謝いたします。震災後まだまだ多くの瓦礫が残る中で、復興計画の検討を行っていた際には、なかなか想像しづらかった新しい市街地の姿が、7年半の復興を進め、本日このような形で一区切りのお披露目となり、亡くなられた方々にもご報告ができることには感無量の思いがあります。

陸前高田は岩手県下では最大の被災地でありました。したがって、その復興計画にも多くの困難が伴いました。しかし、それらを一つ一つ乗り越え、今日に至りましたことには2つの大きな力の助けがあったからのように思います。

1つは技術の力です。市街地がほぼ壊滅状態となった陸前高田では、防潮堤の建設、高台の造成、市街地の盛り土、道路などインフラの建設といった大規模な土木やインフラ構築の技術が必要とされました。しかし、ここでいう技術の力はそれだけではありません。震災の直後に様々な民間企業から提案いただいた交通、エネルギーなどの新技術、さらには産業の振興、新たな産業おこしにつながる技術、健康・福祉を支える技術など、もちろん復興計画で全てが取り入れられたわけではありませんが、陸前高田の復興計画は現時点での日本の技術力の集大成と言っても過言ではありません。陸前高田で試されたこうした復興の技術の経験は、この数か月だけでも西日本豪雨災害、台風21号、そして北海道地震と災害が続く我が国において、

そして世界に目を向ければ毎日のようにどこかで発生している災害からの復興に日本発信の防災・減災まちづくり技術として必ずや役に立つものと信ずるところであります。

そして技術の力と並ぶもう一つの力は、人間の力、人間力であります。なかなか人間力を一言で説明するのは難しいのですが、困難にあっても心を折らず知恵と工夫に希望を見出す力、自分の考えを発信するとともに他者の多様な意見も耳を傾ける他者へのリスペクトを前提としたコミュニケーションの力、そして最後までやり遂げようとする意志の力などをあわせたものをここでは人間力と呼びたいと思います。どのような計画も実行は人間のすることであり、その実現は人間力にかかっています。陸前高田の復興にあっては、技術の力もさることながら、この人間力が大きな力を果たしていることは疑うまでもありません。本日、一区切りを迎えたこの復興は、市民の皆さん、復興計画の実現に直接携われている市役所、県をはじめとする行政や民間企業の皆さん、そして陸前高田を有形無形で支援、応援していただいている全ての皆さんの人間力の上にできたものであり、復興推進委員長として関係の皆さんに深く敬意を表したいと思います。

言うまでもなく、今日のまちびらきは、あくまでも復興の一区切りであります。この場所に人々が戻り、建物が戻り、賑わいが戻り、そして日常生活の営みが戻るまでにはもう少し時間がかかるでしょうし、さらには復興計画で掲げた松原の再生までにはまだまだ長い年月がかかります。復興計画推進委員会としては、今後とも復興を見守り、支援していくとともに、本日ご来席の皆様からも引き続き、復興にご支援賜りますよう改めてお願い申し上げ、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。